

## おかしな消費の日本

まずほとんどの人「日本人」が食に対する危機感がないのではないのでしょうか。

食=生きる、すなわち「命」であることを思えば農業はもっともっと優先的に手厚くされなくてはならないのではないのでしょうか。

IT 産業や工業等などがお金になる—お金があればなんでも買えると勘違いしているのではないのでしょうか。

しかし食糧難になったら買いたくても買えないのでは、今まで売っていた国も自分の国がそういう危機になったら食料は売ってはくれない。

自分たちの食料は自分たちでという考え方をしていたほうが良いのでは。

いや「しなければならぬのではないのでしょうか」

農業は、今、ずいぶん間違いだらけの肥料を使用し、一時的には大量に収穫しているがその後々には土地が汚染され衰えていくのではないのでしょうか。

土地を健全に元通りにして安心して食べることができる食物を作ることが必要であるし後々次の世代へ引き継ぐことがひつようではないのでしょうか。

消費者自信も目、口、それに知識も肥やして生産者と協力して魅力ある農業を若い人々が「したい」、「やりたい」「収入もある農業」へと移行すれば農業への働く意欲も湧いてくるのではないのでしょうか。

ないものねだりを消費者がするから旬の野菜や果物がわからなくなってその一番美味しい時期にとれるものに対しての感謝する心を忘れていないのでしょうか。

最後に大気汚染等いろいろ問題定義が起こっていますがそもそもその問題を引き起こしているのは、個人個人の問題でもあり反省すべきことではないのでしょうか。

良奥子